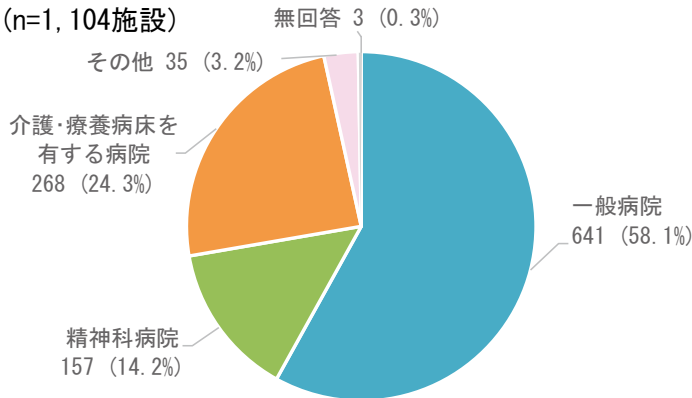


「腹腔鏡下胆嚢摘出術に係る死亡事例の分析」に関するアンケート集計結果

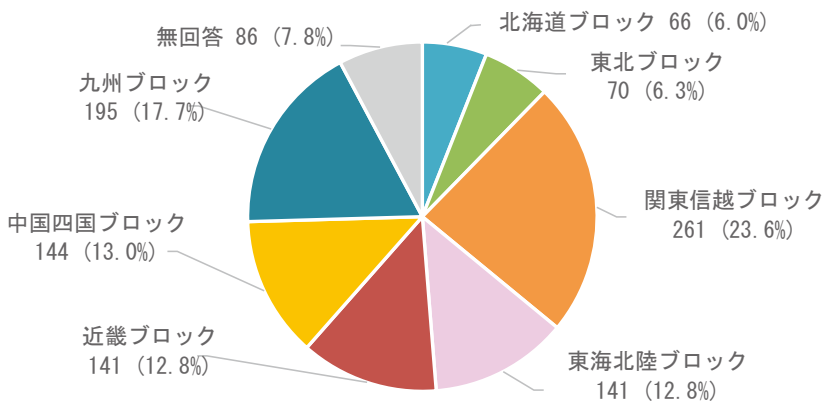
調査期間：2019年2月6日～3月29日  
 調査対象：全国の病院 8,340施設  
 有効回答数：1,104 割合 13.2%

施設について

■ 医療機関の種類 (n=1,104施設)

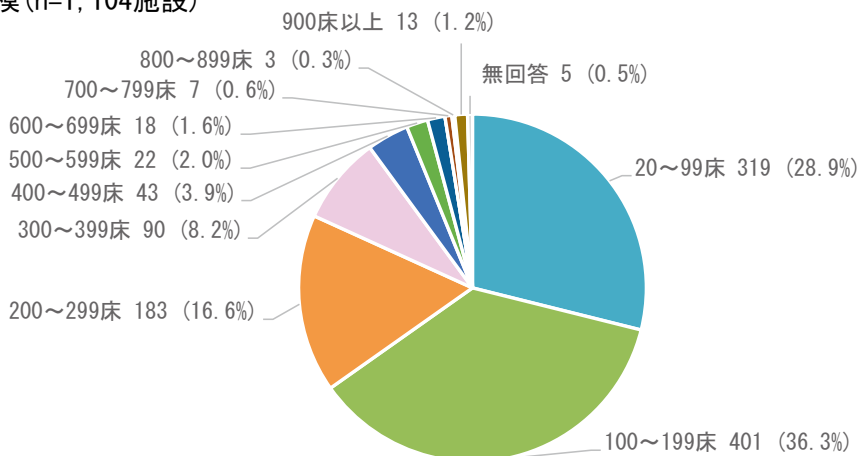


■ 施設が所在する地域ブロック※ (n=1,104施設)



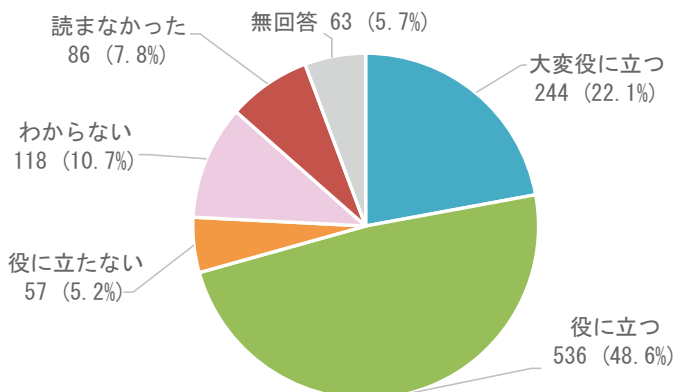
※「地域ブロック」は全国地方厚生局の管轄に基づく分類

■ 病床規模 (n=1,104施設)

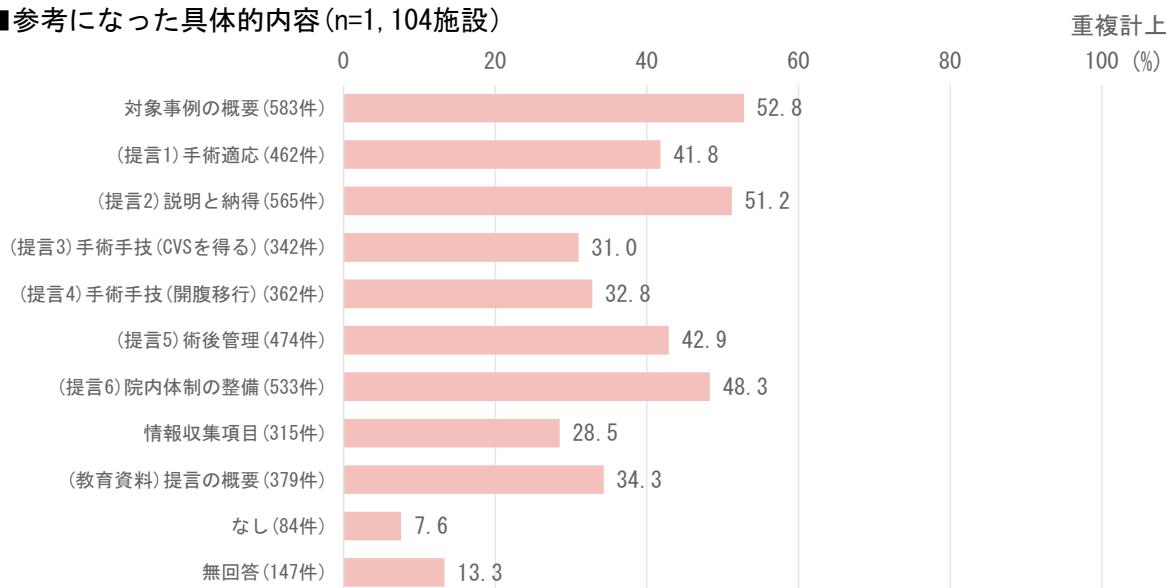


## 有用性

### ■役立つものであったか(n=1,104件)

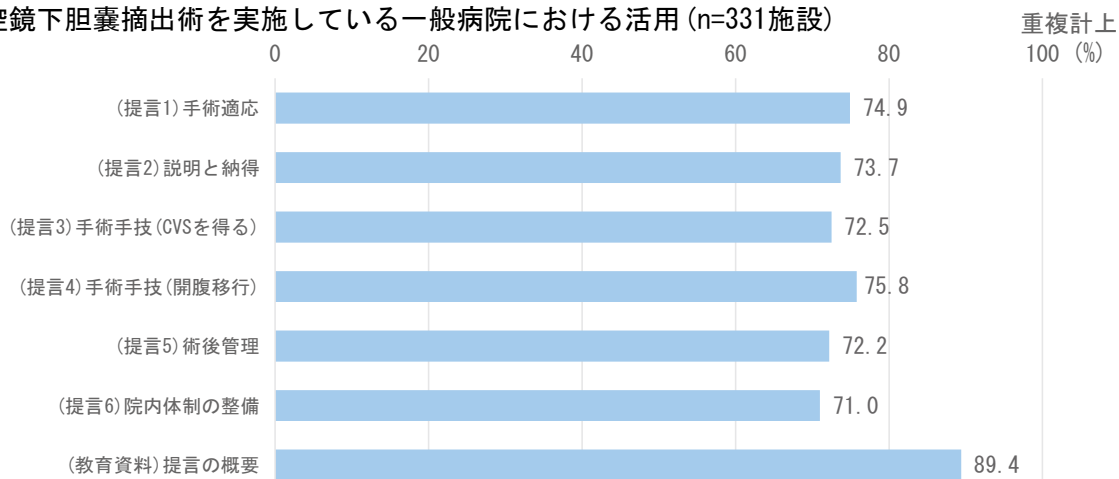


### ■参考になった具体的内容(n=1,104施設)

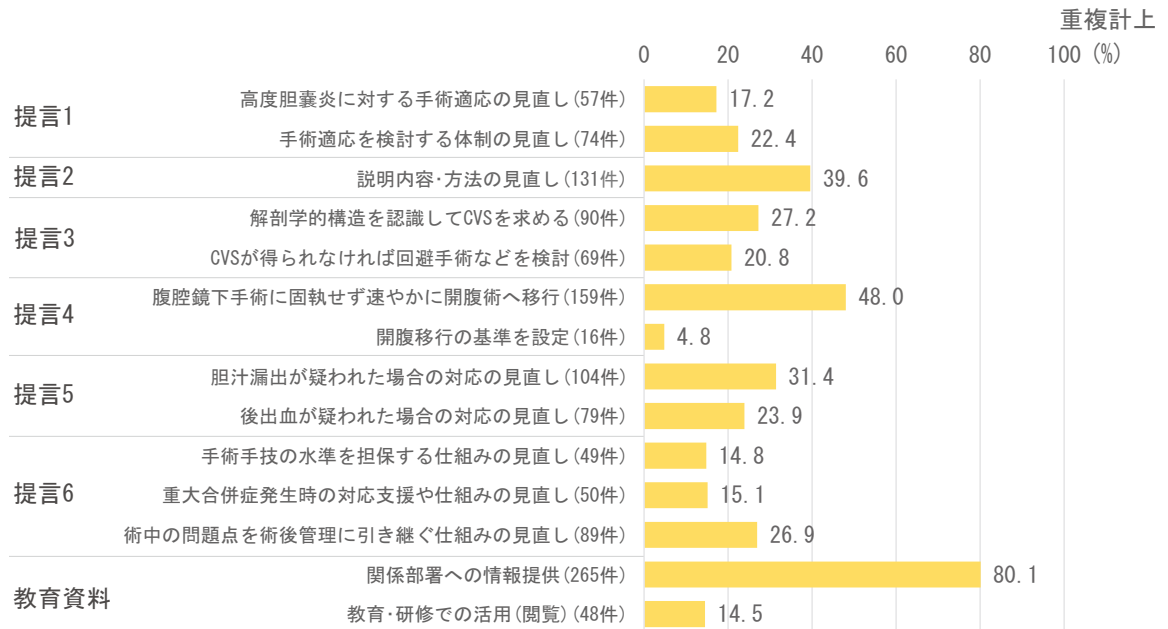


## 活用状況

### ■腹腔鏡下胆嚢摘出術を実施している一般病院における活用(n=331施設)



## ■腹腔鏡下胆嚢摘出術を実施している一般病院における具体的な活用内容 (n=331施設)



## ■自由記載のまとめ

提言1	○胆嚢炎の程度や胆管狭窄等の画像診断は必要に応じて行っている。引き続き慎重に適応を検討したい。 ○高齢者、ハイリスク患者に対し適応の検討を強化した。
提言2	○説明内容を具体化するための取り組みを始めた。
提言3	○外科医のみではなく、チームで共有することを周知した。 ○回避手術の手技について再教育が必要。
提言4	○腹腔鏡下手術の開腹移行基準を作成中である。
提言5	○看護のスタンダードケアプランに、ドレーン排液の観察や対応について追記した。 ○適切に実施できているか見直すきっかけとなった。
提言6	○術後カンファレンスで術中の問題点について見直す。
教育資料	○イントラネットで配信、閲覧をすすめた。

## 要望・感想のまとめ

### ■要望

- 非常に有意義な資料であり、このような提言を今後も続けてほしい。
- 当院は精神科なので、精神科の事例をお願いしたい。
- 当院と比較でき、わかりやすくまとまっており、とても参考になる。

### ■感想

- 鏡視下手術の進歩、普及に伴い、胆嚢摘出術は後期研修医が担当する機会が増えてきた。難症例、合併症には十分注意しているが、改めて注意喚起を促す提言と感じている。
- 直接的にかかわることがない内容であっても、事例を知り、知識とすることは大変意義がある。
- 手術室の介助に付く看護師は限定される。勉強会を実施して「No」と言える看護師を育成したい。
- 手術中でなくとも、あらゆる場面であり得ることと改めて感じた。
- 特に新しい点はなく、以前からのものと相違はないように思われる。